

ジュネーブで危険を避ける

KDDI株式会社 技術開発本部 標準化推進室 課長補佐 なかやま さとみ
中山 智美

1. はじめに

チューリッヒに次ぐ、スイス第二の大都市であるジュネーブには国際連合ヨーロッパ本部の他、ITUをはじめとする国際連合の専門機関が数多く設置されています。スイスとえば、のどかなヨーロッパ地方都市のイメージが一般的かもしれませんが、ここ数年、ジュネーブでのスリ、ひったくり、空き巣等の犯罪が激増しているそうです。住民のみならず、観光客、各種会合出席者の多くがスリやひったくりなどの被害に遭っており、犯罪件数は他のヨーロッパ大都市と比較しても少なくありません。特に、下図の赤い点線で示した地域——コルナヴァン駅周辺やパキ地区が比較的危険度が高いとされています。

犯罪が増加している原因は幾つかあるようですが、シェンゲン協定*により「人の自由な移動」が認められるようになり、フランス経由で不法にジュネーブに入ってくる犯罪者集団による影響が大きいようです。安全対策については各種旅行ガイド等に掲載されているものがありますが、本記事では、

ITU会合の出席者が実際に見聞きした被害・犯罪を中心に御紹介いたします。

※シェンゲン協定 ヨーロッパの国家間において国境検査なしで国境を越えることを許可する協定

2. ジュネーブの危険ポイント

状況にもよりますが、以下のようなポイントを判断の基準に、怪しい相手を避けてください。

・声をかけてきた人

街中で声をかけてきた相手には下心があることが多い。少しでも不安を感じる相手が何かを要求しても、絶対に応じないこと。曖昧な態度もよくないので、はっきりと「NO」と言いましょう。「日本の会社に勤めている」とか「観光ガイドをやっている」などと言っている、油断しないようにしましょう。



図. ジュネーブMap



・悪者の後に出てくる善人

有名なケチャップ（マヨネーズ、アイスクリーム等のこともあり）強盗で、「背中にケチャップが…」と声をかけてきた人物に対して、横から第二の人物が「その人はスリだから気を付けて」などと言いながら現れ、助けてくれます。そのスリが逃げて旅行者が安心したところで、第二の人物が親切に背中を拭いてくれるふりをして財布を抜き取っていったという手口もあるそうです。第二の人物が現れたら無視するか、「ノー・サンキュー」とでも言ってお金を許さないようにしましょう。荷物を足元に置いて、自分で背中を拭いている最中に盗難に遭うこともあるようです。

・子供の集団

子供でも油断は禁物です。旅行者と分かるや大勢で取り巻き、旅行者が困惑しているすきに、ポケットの中に手を突っ込み、財布などを抜き取られる場合があります。集団でなくても、子供であることを利用して、旅行者から金品をだまし盗るケースもあります。

・公共の乗り物で

長距離バスや列車等で隣に座った人物がどんなに親切そうに見えても、すすめられた飲み物や食べ物をむやみに口にしないようにしましょう。運転手と車掌が手を組んで、乗客を眠らせ金品を奪うという手口まであるので、長距離バスの運転手や車掌等がすすめてくれるアルコールや飲み物も、飲まない方がいいでしょう（断るのが心苦しい時は「医者に禁じられている」とか「宗教上の理由で」とでも言えばいいかもしれません）。比較的長時間列車に乗車する場合は、自転車のチェーンで手荷物を自席のそばに固定すると、つい居眠りしてしまった場合でも安全かもしれません。乗り物のドアが閉まる間に引っこり逃走されることもあるそうです。

・エレベーター

エレベーターで、怪しげな人物と乗り合わせてしまったときは自分の宿泊階には降りず、レストラン等の階へ行くか、相手より上の階まで行ってから自分の宿泊階に戻るようにしましょう。一瞬のうちに密室になってしまうエレベーターは

普段以上の注意が必要です。

・エスカレーター

前後に見知らぬ人に挟まれないように乗りましょう。

・偽警官・私服警察官

「日本円を見せろ」などと要求してきたら偽警官。本物の警官なら日本円など必要ないはず。職務質問や「偽造かどうか調べる」などと言われても現金・貴重品・パスポートを安易に渡さないようにしましょう。偽の制服やIDカードを所持している場合もあるそうです。

・その他の注意点

ショルダーバッグのひもを手首に巻いて持つと、引っこられたときに手首や腕を痛めることがあるので注意が必要です。ショルダーバッグは、たすきがけにした上からジャケットを羽織る。ウエストポーチは引っこられる心配は少ないですが、これは眼鏡やカメラと同様に日本人の象徴となっているため、狙われる可能性が高いので避けた方が無難です。旅行先での記念撮影は、カメラを手渡した途端逃げられる場合もあるので、地元の人よりも、同じ観光客に頼む方がよいかもかもしれません。ケンカ等が起きてでもそちらを注目するより、むしろ周りをよく見ていることが肝心です。ケンカやトラブルに目を奪われている隙にひっこりやすりの被害に遭うかもしれません。ひっこりにあってしまったら抵抗し過ぎないようにしましょう。思わぬ大けがになってしまうかもしれません。「顔を覚えられた」と思われると危険ですので、ひっこり、強盗の顔を凝視し過ぎないようにしましょう。交通安全に気をつけるのはもちろんですが、道の端に寄り過ぎて歩かないようにしましょう。建物や路地から急に強盗が出てくることがあります。

3. もし盗難被害に遭ってしまったら

もし盗難に遭ってしまったら、次表にまとめたような対応を取ってください。ジュネーブ特有の対策はなく、海外で盗難に遭った場合の一般的な対応で大丈夫です。

表. 盗難対策まとめ

	対応策	事前に用意しておいた方がよいこと
クレジットカード	①カード会社に連絡し、カード失効の手続をする。 ②警察へ行き、盗難（紛失）を届けて書類か交付番号をもらう。	・カード会社の紛失時の連絡番号 ・カード番号控え
パスポート	①最寄りの警察へ行って盗難（又は紛失）の報告書の作成を依頼する。 ②日本大使館・領事館でパスポートの再発給手続を行う。 （パスポートの再発給まで滞在日数の余裕がない場合） 「帰国のための渡航書」を申請する方法もあります（大使館等で相談して下さい）。 ※帰国後に新規にパスポートを申請するとき、一般旅券発給申請書に必要な書類に加えて、「帰国のための渡航書」も提出しますので紛失しないようにしてください。	・大使館/領事館の連絡番号、住所 ・旅券番号 ・本籍地、氏名、現住所 ・発行年月日 ・発行場所 ・証明写真2枚（4.5×3.5センチメートル） ・日本国籍を立証する書類（パスポートコピー等） ・戸籍謄本（抄本）（6か月以内に発行されたもの）
航空券	航空会社に連絡し、指示に従ってください。	・使用航空会社の連絡番号 ・航空券の番号 控え ・発行日 控え
保険	パスポートの盗難等、海外旅行保険の携行品保険の対象になっている場合 保険会社に連絡してみましょう。 その他パスポート発給手数料、最寄りの在外公館までの交通費、延泊のホテル代などが保険に含まれていることが多いようです。	補償内容の確認
PC、携帯電話等		・盗難に遭った場合の手続があれば確認しておく。 ・環境の再現手順をまとめておく。 ・緊急連絡用電話番号/メールアドレス/ファイルのバックアップを取っておく。

発言は出だしが大事

国際会議アドバイザー

くりさき よしこ
栗崎 由子



前回のエッセイでは、私が国際会議に慣れてきた頃、発言する前にまず手元にメモを作り、要旨を書き出してから手を挙げた、ということをお話ししました。

その後20年余り、国際機関、NGOなど、いろいろな国際会議の経験を積んでまいりましたが、準備が大事だということは今も変わりません。

今回は、経験を通じて身につけてきた、私なりの発言の組み立て方についてお話ししようと思います。

読者の中には、国際会議に慣れた方から、数回の経験を積んだ方、また、いつか出席してみたい、という方に至るまで、様々な方がおられることでしょう。発言のコツやまとめ方は、ひとりひとりの個性や経験により様々です。ですから、ここで私が申し上げることは、ひとつの例としてお受け取りください。

発言は出だしが大事です。

出席者が10人に満たないような小規模の会議ならともかく、会議の規模が大きくなるほど、発言者の伝えたい細かなニュアンスは、なかなか伝わらなくなるものです。日本語のコミュニケーションは、相手の気持ちを思いやる細やかなニュアンスに満ちているのですが、大きな会議場では残念ながら、それは伝わらないと思ってください。そもそも聴く相手が同じ文化を共有していないのです。しかも、英語は会議、つまり仕事のための共通語ですが、大多数の人にとって自分の母語ではないのです。

そういう場では、言葉は平易、発言内容の論理構成は単純な方が、発言の主旨はよく伝わります。私は、英語を使い慣れていない人々にも分かりやすい語彙で話す、発言の論理は、聴き手にフォローしやすく組み立てる、この二つを心掛けています。

テクニックとしては、発言を聴く相手の心構えを、最初に作ることです。例えば、私の場合は、発言を始めるときに、よくこういふ言い方をします。

「私は、〇〇について、三つの点を申し上げたいと思います」
その応用形としてこういう言い方もできます。

「私は、〇〇について、一つの質問と、一つの意見 (Observation) があります」

つまり、このようなやり方で、聴き手に私のメッセージをフォローする道筋を作る、言い換えると、私の発言を聴く枠組みを最初に提供するのです。

もう一点大事なこと、それはゆっくり話すことです。私は子どもの頃から早口で、母には、もっとゆっくり話さないと言われていたものでした。こういうことは、自分では意識していないので、どうも困ります。けれども、会議のときは、早口は相手に理解されない結果を招くので、私の損ですから、ゆっくり話すことを心掛けています。

国際会議の場では、誰でも緊張します。そこに英語の苦手感が加わると、人は早口になってしまいがちです。どうぞ、リラックスしてください。ゆっくり話して恥ずかしいことは何もないのです。むしろ、あなたの発言が聴き易くなり、英語の苦手な他の出席者にはむしろ感謝されるでしょう。発言するのは、他の人に自分の意見を分かってもらうためです。賛成・反対は、分かってもらった、その後のことです。

このように、発言の組み立てを工夫すると、あなたの言いたいことが分かってもらえるようになります。すると、会議が面白くなります。